

保育科学生による地域親子支援事業* (2009 年度ワイワイプラザ in キリ短)

吉村 壮明** 山城 真紀子*** 川西 康裕****
 大山 伸子***** 大城 りえ*****
 赤嶺 優子***** 照屋 建太*****

1. 背景と目的

今回、学生主体による地域親子支援事業（通称、「ワイワイプラザ in キリ短」）を行って、もう数年になる。私（吉村壮明准教授）が学科長をやっていた時の事業の記録ということから形式上、筆頭著者としていただいた事で、僭越ながらこの事業について書かせていただくこととなった。私なりに思いつく事を書いてみたい。この地域親子支援事業の発端だが、そもそも、この親子や地域への支援は、周知の通り、家族への援助や地域における保育者の役割の高まりととともに出てきた視点だ。それらが科目としてカリキュラム化された時点で（家族援助論など）、本学においては、さらなる学生の資質強化を求め、かつて山城真紀子教授が学科長の時代に「非正規の授業時間外でやる全学生参加の地域親子支援事業」を「ワイワイプラザ」と既にネーミングされて学科会議で発案されたように記憶している。学科事業として 2010 年末現在で 3 回目を迎えるプログラムで、この実践報告は 2 回目のものだ。

さて、このプログラム説明にあたって私が学生によく言ってる事だが、それは保育者としての責任拡大以前に、社会の企業における地域親子支援との「差異」の自覚である。巷をみれば、一見、地域と親子の支援に溢れており、「地域における親子支援」という名目での活動は企業も資本投下して頻繁に行っている。例えば有名なグローバル産業のファストフードのチェーン店の横には子ども広場として遊具が設置され、米国のテレビアニメで有名なキャラクターの玩具が配られ、親子が安心して来店し長い時間を過ごせるようになっているし、巨大なモール系のショッピングセンターでも親子が座って遊べるような空間が設置されている店舗をよくみかける。この親子支援と我々の行う親子支援の違いはなにか。それはグローバリゼーションの流れの中、市場中心主義的に子どもを次世代の顧客として考えているかどうか、という点だろう。育成か顧客かという事だ。社会学でもよく指摘されているが、企業が親子支援を行うのは、まさに次世代の顧客としての囲い込みに他ならない。ファストフードを例にとれば、あたかも機能を失いつつある「家庭」でのおふくろの味（例えば団欒で囲んだ肉じゃが）の代替物として、ハンバーガーを楽しい遊具での記憶とともに強烈にインプリンティングし、その子が将来、大人になった時にまた「なつかしの味」へ御来店願うというわけだ。その「神話作用」をテレビという存在が強化するという側面も否定出来ない（この視聴者の取り込みについてはブーアスティンなどが指摘しており、メディア論へと話が広がるので書かないが）。

だが我々、保育者養成校の親子支援とはそのようなものではなく、ある意味、完全なる地域

* Local Parent-and-Child Support Project by the Early Childhood Education and Care Department Students (Waiwai Plaza in OCJC 2009)

** Masaaki Yoshimura *** Makiko Yamashiro **** Yasuhiro Kawanishi ***** Nobuko Oyama

***** Rie Oshiro ***** Yuko Akamine ***** Kenta Teruya

の親子貢献を根っこにし、それらの視座を持った保育者の育成の為であると断言できるだろう。最初のこの事業の説明の時に、学科長だった私は言った記憶がある。「資本力としても目的としても企業とは異なるわけですが、みんなの考える親子支援、本学ミッション系ならではの地域支援、さらに言えば建学の精神をもとにした支援事業が出来るはずです。頑張ってください」と。それがどこまで今回の活動で突っ込んでやられているかは学生主体や個々のクラスの考え方という側面もあり、なかなか判断が難しいが、以下はそのような取り組みを紹介した資料である。読まれる方に少しでも地域親子支援とは何かと考えていただける素材となれば幸いである。

2. 実施方法

保育科1・2年次合同で4クラスに分かれ、クラス毎学生が主体になって企画・運営を行う。各クラスに専任教員2名が、助言・指導として関わる。

5月に本事業の趣旨説明会を行い、その後各クラスで活動内容の企画決定、活動準備を行う。10月、11月、12月、1月の計4回を各クラスが一回ずつ担当実施し、反省会後報告書を作成する。

3. 各クラスの実施内容

第1回：2009年10月31日(土)14時から17時

テーマ：行こうよ！丘の上のハローウィン

～カボチャだらけのレクリエーションを楽しもう～

1. 遊びの内容

(1) “劇”公演

○ハローウィンのお話をわかりやすい人形劇で

(2) 3つのゲームに挑戦

○バルーンアート

○カボチャ笑い(福笑い)

○カボチャ探し

○プラスチックでチン

(3) クッキングを親子で楽しく

○親子でオリジナルクッキーづくり

(4) 製作遊び

○お面づくりや写真立てづくり

2. 参加者数：79組 264人

参加地域：西原町、宜野湾市、浦添市、那覇市、与那原町、南風原町、南城市、中城村

3. アンケートの結果(自由記述)

(1) 感想をお書き下さい。

・子どもたちが喜んでいました。こういう機会をたびたび催してください。

今の子どもたちは自由に遊ぶ場所やチャンスが少ないです。

・楽しかったです。

- ・人形劇をみて、ハローウィンのお話しが解ってすごく楽しかったようです。
いろいろなゲームも子ども目線で準備してくれて、学生さんもやさしく接してくれて良かった。
- ・すごく楽しかった。また、来年もあるといいなと思いました。
学生の方々もいろいろ考えてくれてすごく良かったです。
- ・学生さんの頑張りがよく伝わってきました。一つ一つのコーナーのアイデアがとても良かった。
- ・材料の準備など当日になってみないと予測出来ない部分もあり、事前の準備が要らない製作だとその日の現場の状況に応じた対応がしやすかったかも知れませんね。学生さんたちの頑張り応援しています。すてきな保育士になってくださいね。
- ・いろいろなゲームがあって楽しめました。クッキーづくりを作れるのを待っていましたが、作れなかったのが残念です。
- ・子どもの喜ぶのがたくさんあって良かった。体育館いっぱいにもっとあるといいなと思いました。
- ・楽しかったが、スタッフが少ないように感じた。
- ・社会の状況が子育てに協力的とは思えない時代、学生さんのこのような活動は大変期待しています。一回目ということで、準備の目安がむつかしく、足りないところも多かったと思います。次回に期待します。
- ・子どもたちは大喜び、今後も続けてください。劇の方は狭い空間でちょっと心配でした(インフルエンザ)。
- ・各コーナー大きい案内があると、もっとまわりやすかったと思います。
- ・とても楽しい企画ありがとうございました。来月も楽しみにしています。
- ・とてもアットホームでよかったです。毎年やってもらえると嬉しいです。
- ・とても楽しかった。次は早く来て楽しみたいです。
- ・子どもも大人も夢中になって遊べるプログラムがたくさんあって良かった。
次回もぜひ参加したいです。学生の皆さんありがとうございます。
- ・連れられてきましたが、楽しかったです。
- ・いろんなアトラクションやアイデアがすばらしかったです。
子どもたちをたくさん連れて来ればよかったですと思いました。お疲れさまでした。
- ・ハローウィン子どもたちに知ってもらえるいい機会になりました。ゲームも楽しかったです。
- ・たくさんの参加者でにぎやかで楽しかったです。クッキーづくりも楽しく、おいしかったです。

(2) どのように知りましたか？

- 新聞、チラシ、インターネット、ママ友から、友人から、紹介、児童館のポスター、連れられて

4. 学生の全体的な反省点

(1) 全体の反省：

予想以上の参加者があり、嬉しい悲鳴。

予想以上の参加者への対応や材料不足など課題。

クッキーを受け取れなかった親から苦情が寄せられた。その時の対応も十分でなかった。

当日の安全や運営についての検討が十分でなかった。

アンケートでアドバイスを受けた。(コードのたるみ、劇のとき空間が狭い等)

1・2年次の交流につながって良かった。

次のクラスへ反省を生かしたアドバイスが必要。

(2) 各班の反省

○クッキー班：予想外の参加者数に対応出来なかった。(材料が不足 → 人数制限が必要)

焼く時間が長く、手順を詰めて置く必要があった。

衛生面の配慮(手洗いや床の汚れ)が足りなかった。

○製作班：ボンドとノリが不足した。

親の対応を検討しておく必要があった。

○ゲーム班：材料が不足した。

子どもたちに残念な思いをさせた。

「福笑い」は受けなかった。

「プラバン」づくりは勉強不足であった。

○劇班：公演回数を増やした。

準備開始が遅い

本物のカボチャの準備

第 2 回：2009 年 11 月 28 日 (土) 14 時から 17 時

テーマ：パクパクトントンワイワイ

工作、おかし作り、チラシプールなど。ワクワクな気持ちでいっぱいになろう！！

1. 遊びの内容：

(1) おかし作り (スイートポテト)

紅芋を使い、ビスケットなどでトッピングする。

生地は準備しておく。参加者(保護者、子ども)には、絞りだしやトッピングをしてもらう。

(2) 工作

○キーホルダー作り

子どもたちにマーカーで絵を描いてもらい、オーブンで焼く様子も見てもらう。プラバン用シートではなく、弁当のふたを再利用する。

○写真立て作り

子どもたちがダンボールを貼り付け、台紙を作り、クレヨン・折り紙・スパンコールで飾りをつけていく。

写真を撮影し、写真立てに入れてプレゼントする。

○パラシュート作り

パラシュートを作り、保護者とともに中庭で飛ばして遊ぶ。

家でも作れるように、説明書を配布する。

(3) 体育館で遊ぶ

○チラシプール

ビニールプールをダンボールで補強し、下にマットを敷き、切ったチラシやビニールボールを入れる。安全面に注意し、1回に6名程度の子どもが入るようにする。

順番待ちをしている子どもたちは、積み木で遊んでもらう。

○等身大お絵描き

ロール紙に、子ども一人ひとりの型を線で描き、その後保護者とともに色を塗ったり、飾り付けをしてもらう。

○アスレチックコーナー

トランポリン、平均台、縄跳び、フラフープ、ボールコーナーを用意する。

2. 参加者数：35組

参加地域：那覇市、西原町、宜野湾市、北中城村など

3. アンケートの結果（抜粋）

- ・子どもの姿を見て、次回も参加したい。
- ・友人も誘って来たいです。
- ・写真立て作りは記念になるので、作る方もすごくうれしいです。
- ・親子で楽しめました。
- ・子どもたちがすごく楽しく過ごしていました。
- ・子どもに折り紙を教えてほしい。
- ・飲み物やお菓子まで準備されていてうれしかったです。
- ・名前が分かるように、名札をした方がいいな。
- ・学生さんも頑張っている姿を見ることで、親としても心にくるものがありました。
- ・これからも親子が一緒に楽しめる企画をいっぱいして下さい。
- ・前回のハロウィン以来、「キリ短行こう！」と毎日言っていました。
- ・素敵な保育者目指して頑張ってください。

4. 学生の反省

(1) おかし作り

良かった点：卵アレルギーの子どもでも食べられるように配慮できた。

反省点：トッピングの種類をもっと考えるべきだった。

(2) 工作

○キーホルダー作り

良かった点：弁当のふたをリサイクルしたことが、保護者からの評判が良かった。

年齢に関係なく、できる題材だったので良かった。

複数作りたいという要望にも対応できた。

反省点：外枠が分かりづらく、色塗りの際、机にはみ出してしまった。

○写真立て作り

良かった点：見本を準備していたので、子どもたちがイメージしやすかったようだ。

担当を決めていたので、スムーズだった。

反省点：接着のり使用後のお手拭を準備していなかった。

上下逆さまに飾り付けしている子がいて、説明不足だった。

○パラシュート作り

良かった点：子どもたちが試行錯誤しながら飛ばしていた。

保護者と楽しく飛ばしていた。

作り方の説明書を用意していたので、「家でも作りたい」という要望に応えることが出来た。

反省点：中庭の木に引っかかってしまうケースが多かったので、おもりの重さを考える必要があった。

(3) 体育館で遊ぼう

良かった点：等身大お絵描きを持ち帰れるようにした。

反省点：アスレチックコーナーでは、親が見ているだけになってしまったので、親子でのゲーム遊びを用意した方が良かった。



チラシプールの様子



等身大お絵描きの様子

第3回：2009年12月19日（土）14時から17時

テーマ：ハッピークリスマス～すてきなおくりもの～

※2年目の「ワイワイプラザ in キリ短」の開催に当たり

昨年の第1回目の経験を踏まえ、2年目はどのような内容を企画・運営・実践するかという主旨のもと、地域における親の子育ての悩みや親子支援のニーズについて、聞き取り調査を行った。聞き取り調査は、沖縄県内の保育士、キリ短大保育科学生の親御さん、現在子育て中の方々を対象に行った。その結果、子育て支援の充実を望んでいる、地域行事の情報不足の解消、親の子育てや教育力の低下などが挙げられた。その調査結果を生かしながら、次のセクションについて、企画・実践することにした。

1. 遊びの内容

- (1) 絵本の世界に飛びこんで→手作り絵本の読み聞かせ
- (2) サンタの国の入り口→サンタの国で運動遊び
- (3) サンタのおもちゃ工場→まつぼっくりでオリジナルクリスマスツリーの製作
- (4) プラネタリウムの迷路→星空の下で楽しいひとときを…サンタに会えるかも
- (5) 思い出の詰まった記念写真→親子の写真を撮りプレゼント、お菓子の受け取り

季節的にクリスマスの時期であったことから、本学、沖縄キリスト教短期大学のユニオンで親子の撮影。その後、チャペルからスタートし、クリスマスにちなんだオリジナルの絵本を作成し、絵をプロジェクター投影。台詞やナレーションを含め読み聞かせを行い、その絵本の主人公になりきるという導入。サンタと一緒に移動。体育館には様々な遊具を森や川、池などに見立てて、ゲーム形式の体験型の遊戯に取り組んだ。造形室では、まつぼっくりにビーズなどで飾る遊びをしながら、教室を暗室にしてイルミネーション化し、サンタとのゲームを楽しむ。最後は出来た飾りとお菓子のプレゼントをもらうという流れ。

学生が創作したクリスマスの絵本の世界を中心として、数々のゲームや遊び、活動を準備し、

大学内を回るストーリーゲーム形式(ウォークラリー)の企画。リーダーを中心として学生が主体となって広報から準備、当日の設営などを一貫して行った。

ユニオン：受付 ママトークコーナー、楽器遊びコーナー、写真撮影
↓
チャペル：スライドショーを使い、オリジナルストーリーの絵本の読み聞かせ
↓
体育館：平均台、跳び箱、フラフープ、大玉ころがし、トランポリン
↓
造形室：まつぼっくりを使ったオリジナルクリスマスツリーの製作
↓
プラネタリウム教室までソリで行こう：北棟2階廊下
↓
北2-4：プラネタリウムの迷路ゲーム じゃんけんゲーム
↓
ユニオン：最後に手作りツリーのプレゼント 写真の受け取り アンケート記入

2. 参加対象、参加者数及び参加地域

参加対象：幼児から小学生まで

参加者数：63組 計215名

参加地域：西原町・那覇市・浦添市・宜野湾市・豊見城市・糸満市・北谷町・沖縄市
金武町・名護市・中城村・北谷町

アンケート回収：57件

3. 参加者のアンケート結果(アンケート用紙《Q1～5》に記述/57件)から一部抜粋

(1) 良かった点

みんな元気があり、とてもよかった。無料であることが参加しやすい。スタッフのみなさんがやんちゃな子どもにも優しく対応してくれた。ツリーのおみやげもうれしい。サンタクロースのソリに乗って大喜びでした。はじめに、絵本を読んで実際に体験させるアイデア、その進行方法、とてもよくできた流れだと思いました。親も楽しめるよい機会なので、ぜひ続けてください。手作り感あふれる温かい楽しいイベントでした。いろいろな遊びを体験できて親子一緒に楽しめた。全体的に良かったと思う。次回も是非参加したい。ツリーの工作ができたので良かった。準備などご苦労様でした。子どもたちがとても喜んでいました。みなさんが笑顔で案内、対応してとてもよかった。全てよかった。実習より勉強になるのでは。来月もどんな企画か楽しみです。ツリーも作れて大満足。暗闇の迷路もワクワクでした。1歳3カ月のヨチヨチ歩きの娘も十分に楽しめました。学生のお兄さん、お姉さんがクリスマスのコスプレをしているので、雰囲気味わえてよかった。流れがスムーズで飽きることなく楽しめた。これからもずっと続けてください。案内係の対応がわかりやすかった。すべて良かった、満点です。準備、計画がしっかりなされていた。お土産もありがとうございました。目や耳、体を使って全体で楽しめました。遊びが子供の心をつかんでいる。親子でトランポ

リンに乗ったことが楽しかった。読み聞かせは、子どもが目をキラキラさせて一生懸命聞いていた。とてもいい子育て支援なので続けて欲しい。初めての参加でしたがお土産付きで至れり尽くせりで感動しました。学生のパフォーマンス誘導が良かった。前回より、パワーアップしている。大人も楽しめた。悪かった点は特にありません。学生さんの心のこもったプレゼント、うれしく思いました。大学でこんな楽しい催しものがあるなんてびっくりしました。滑り台で遊んで楽しかった(子どもの記述)。ツリーを作ってたのしかった(子どもの記述)。

(2) 指摘や意見・改善点

案内板がなく迷った。体を動かして自由に遊べる場所がいっぱいあればよかった。最初の説明がほとんどなかったのも、ウォークラリー形式であることの説明がほしかった。フラフープのケンケンパーは小さい子供には大きすぎた。キャンパスの入り口に看板が必要。赤ちゃんや年長の子供に分けてプレー出来れば、より安全に遊べると思う。写真コーナーでサントさんのお人形でもあったらもっとよかった。ウォークラリー形式でしたが、ちょっと物足りなかった。体育館での遊びをもっと取り入れてほしい。手首のバンドに子どもの名前を書いたら、学生と子どもとのコミュニケーションができたと思う。体育館で思いっきり体を動かせる遊びをしてほしかった。絵本の読み聞かせは、直接、学生が前に出てやった方がわかりやすい。イベントの告知の必要がある。絵本の読み聞かせで、なぞなぞを出して皆に答えてもらう場面があると楽しかったと思う。メダルがちぎれてしまったので、もっと丈夫にしてほしかった。皆さんが優しく楽しめました。トランポリンは子どもと楽しめた。ツリーのネイルがラッピングしたらほとんどはがれていた。マニキュアは子どもには扱いにくい。マニキュアは匂いもあり、教材として向かない。体育館の運動遊びはもう少し長いほうが良い。長く遊べるものがあればよかった。学生が呼びかける、「お父さん、お母さん」の言葉に、叔母と参加した子どもが寂しくなったようだ。ツリーがイメージ通りいなくて、スタッフに直してほしかった。お菓子が足りなくて子どもが泣いていた。写真のプリントアウトに時間がかかり過ぎた。救急箱を用意してほしい。受付の説明や駐車場のアナウンスが必要。キャラクターが多く、雑然とした感じ。

4. 学生の反省点(一部抜粋)

(1) 各コーナーの活動について

受付班(ユニオン)：救急箱の用意や安全面の配慮が足りなかった。写真のプリントに時間がかかってしまった。駐車場から受付場所までの案内が不十分。

写真班(ユニオン)：カメラの台数は5～6台、プリンターは2～3台必要で今回は足りなくスムーズに対応できなかった。受付と撮影場所の連携が必要。写真をもらえない親子がいた。

絵本班(チャペル)：時間配分の工夫。絵本の完成が遅かったため余裕が持てなかった。他の班との連携が取れていない。

運動遊び(体育館)：年齢を考えての教具の工夫が必要。絵本班との連携が取れず、変更が

多かったので運営に支障をきたした。

造形班 (造形室): マニキュアの教材は子どもには不適當。絵本班との連携が取れていなかった、買出しが遅かった。

ソリ班 (北 2 棟廊下): ソリは、もっと実用的に作ればよかった。大人がトンネルから抜けられなかったのでサイズの工夫が必要。迷路をもっと長くすればよかった。

プラネタリウム (北 2 - 4): お菓子、メダルが足りなかった。バラエティに富んだゲームの創意工夫。クラス全体がリンクしていない。親子とわかる印が必要。

(2) 全体的な感想

① 良かった点

準備は各班とも後半からスムーズだった。参加者も企画者も参加しやすい活動内容だったように思う。前年度を参考にしつつ親子支援についてみんなで深く考える事が出来た。企画段階で、時間はかかったが、まとめる事が出来た。みんな楽しそうに参加している姿が印象的だった。季節や活動内容もあり、記念になる物が多かったように思う。普段出来ない遊具(トランポリンや玉ころがし)の扱いを経験する事が出来た。乳幼児を持つ母親を想定し授乳室を設置した。ゲームに参加しない人や兄弟姉妹の為に、遊具室を設定した。

② 反省点

ゲームの途中で渡す準備物(お菓子)が不足し、買いに行くことになった。参加者の年齢の幅広さから小学生へ言葉かけに戸惑った。造形室からユニオンに制作物を渡す際、その間にイルミネーション体験のみだったので、段取りがうまくいかない時があった。体育館のロープ等が危険だという意見があった。最初は各班の連携が取れず辛かった。全体的に 200 人を超える人数の参加者があった為、予想外でその対応で大変だった。

第 4 回: 2010 年 1 月 16 日 (土) 14 時から 17 時

テーマ: 力をあわせてゴールへゴー!

わくわくファミリー たんけんたい

内容:

1. ちらしプール

2. 怖楽しい おばけ屋敷

3. スライムづくり

材料 ホウ砂、洗濯のり、絵の具、スプーン、洗面器、水を使用した。

4. 親子製作

5. おやつ

○おしるこ（ぜんざい）COOKPAD（<http://cookpad.com>）から作り方は参考にした。

材料 小豆、白ザラメ、天然塩、餅を使用し、おやつとして提供した。

※スライムづくりとおしるこについては、作り方のコピーも提供した。

参加者の地域：那覇市、浦添市、宜野湾市、西原町、沖縄市 ほか

参加者数：283人

アンケート回収：32件

参加者の感想（抜粋）

- ・チラシプールやおばけ屋敷がとても楽しそうでした。おばけ屋敷には3回も入ってしまいました。ぜんざいも美味しくいただきました。楽しい時間をありがとうございます。
- ・おとしも一度来たことがありました。そのときはそんなに子どもたちも多くなかったのですが評判をよんで今回はたくさんの参加者になったのではないのでしょうか？子育てしているとこのような催しは本当にうれしいです。楽しい時間を過ごせました。ありがとうございます。
- ・子どもたち（男の子2人）はチラシプールを特に喜んでいました。ぜんざいのサービスもあり、ゆっくりアンケートも書けるスペースもあり時間もあって良かったです。ネットや新聞案内にもっと力を入れると参加者が増え、人が集まると思います。
- ・とても楽しかったです。学生さんが子どもたちに優しく接していただきありがとうございます。
- ・とても楽しい時間を過ごせました。おやつ作りでは「なるほどな」というアイデアもあり、家でもやってみたいと思います。ありがとうございます。
- ・最初の回から4回参加しています。学生のお兄ちゃんお姉ちゃんも大好きになったみたいです。
- ・クリスマスに続いて2回目の参加でした。前回よりコンパクトにまとめられていましたが子どもが楽しんでいました。パネルシアターの声が少し小さかったです。おばけ屋敷はそんなに怖くなく、子どもは安心したみたいです。ステキな企画ありがとうございます。
- ・正月の雰囲気遊びもあり、子どもがとても喜んでいました。支援センターや公園での遊びとは違っており、とても良かったです。ぜんざいもいただきほのぼのした気持ちになりました。ありがとうございます。
- ・とてもよかったです。私自身も勉強になりました。楽しい企画ですね。子どももスライムづくりに喜んでいました。
- ・パネルシアターは正月にちなんだ内容で良かったのですが、声が小さかったのもったいなかった。マイクでやると良かったかな～。
- ・楽しかったです。次回の開催も楽しみにしています。初めての参加でした。
- ・学祭にも参加したのですが子どもたち共々とても楽しく遊んだので大大満足でした。このような催しを本当にありがとうございます。
- ・もっと早く知っていれば全部参加したのですが残念です。楽しかったです。
- ・今回で終わらず続けてほしい催しです。お願いします。子どもが安全に遊べる空間の提

供、ありがとうございました。

学生の全体的な反省

良かった点

- ・親子がたくさん集まった。
- ・保護者も参加していただき一緒にワイワイできた。
- ・子どもたちが遊びを自分たちで発展させていた。
- ・知らない子ども同士でみんな仲良く遊んでいた。
- ・私たちも子どもたちと一緒に楽しむことができた。
- ・チラシプールで遊ぶだけでなく、宝探しを組み入れたことが良かった。

反省点

- ・宝探しのルールをしっかり決めていなかった。
- ・カラーコーンは子どもたちの足にかかったり、倒したりして危険だった。
- ・チラシプールは複数ではなく大きいのを1つにした方が良かった。
- ・スライムづくりの際に何分かかるのか？ 順番があることなどの説明があった方が良かった。また、待ってもらう場合も「約何分待ちです」という案内があるとさらに良い。
- ・チラシプールの周辺ではホコリが舞い上がり、手や鼻の中が黒くなった。長時間いる場合はマスクなどをすることを考えた方がよい。

ワイワイプラザ in キリ短は、保育科の学生（1・2年次）が力を合わせ、運営、企画、実施をする地域親子支援事業である。今回は、予想以上の参加者に、戸惑い臨機応変に対応する姿には頼もしさを感じた。反省点もあるが、参加者の皆様に喜んでもらい色々な感想を記してくださいましたことに感謝をしたい。このような貴重な体験は、これからの成長の糧となることだろう。



パネルシアターの様子



体育館の様子

3. おわりに

このような時間外でのある種、イレギュラーな活動は2011年で終わりであり、学科事業であった通称「ワイワイプラザ in キリ短」は正規の時間に組み込まれ、科目「地域子育て支援実習Ⅰ,Ⅱ」としてカリキュラム化される事となった。学生間の温度差の問題や教務的な時間の位置づけのクリアという点では、進歩と言えるだろう。ただ学生も教員も、また一つ、下ろせない大きな荷物を背負い込んだという感じだが、実際、やっていく中でカリキュラム化の利点や問題が今後、再度、問われて検討されることになるだろう。今まで学生の企画発案の状況を散見しての感想としては、学生自身も親子支援で何をやるかを発想する時、テレビメディアから距離がなかなかとれないという事である。そもそもイベントのタイトルがテレビ番組からの参照であったりする場合もあるが、それはテレビが日常化している今日、ある意味、致し方ないのかもしれない。また、もう一方の軸で沖縄の文化をプッシュするという傾向もある。一種、遊びを通じて伝統の復権を行う試みだが、このあたりは季節行事や本学の特質（建学の精神の関連する平和主義者の育成など）と整合性を考え、更なる理念の検討が必要だろう。それに個人的実感だが、準備する場所の問題も大きいと思われる。今のインフラではやむを得ないが、なにせ物理的にキャパシティが無いのだ。実際、私が授業で使用する造形教室が丸々、半年間はこの準備の倉庫や物置と化す為、非常勤の先生を含め多大な支障がでていた。今後、やっていくならば、準備場所としての「地域親子支援準備室」（仮称）の確保が急務だと感じる。

しかし、そういった理念の検討やインフラ整備は今後の課題として、なによりも驚くのは、このタイトな二年間のカリキュラムの中で、時間外のこのような大きな事業を実現化していく学生の熱意だ。自然発生的にリーダーが決まり、そこを軸としてプログラム実現化へと向かっていく。その背景には個々が保育に関わる者であるという自覚が強烈に芽生えているように感じた。当時の学科長として、学生や教員の皆さんに心より感謝したい。本当におつかれさまでした。この社会的には小さな試みが、どうか次世代の糧となりますことを・・・。

4. 付録：各クラスのチラシ

ワイワイワザ

<http://www.ocjc.ac.jp/osirase/09/waiwai2009.htm>



10月31日
(土)

★

第1回

行くお丘の上の
ハロウィン/お-
みんがでワイワイ
trick or treat!!
かぼ"ち"パ-ティ-
ワザッ! 始まるよ!

ワイワイ
+ 工作におかし作り, チラシ
+ プール, 臂身大お絵かきなど...
ワクワクな気持ちで
一杯にしよう!!!

2008年から行われている
沖縄キリスト教短期大学 保育科の
学生達を中心に企画運営していく
親子連れあい, 地域交流事業です!
子どもと一緒に遊んで
親同士, 子ども同士の交流が
広がることを目的としています!
たくさんのお参加が待っています!

11月28日
(土)

★

第2回

★

わを合わせて
ゴールへゴー!!
わくわくファミリー探検隊
★
手作りのおばけわしきや
チラシで作ったプールなど
わくわくするお楽しみ空間を
つくって待っています!

第4回

12月19日
(土)

★

第3回

ノリノリクリスマス
~すてきなおくりもの~
系念本の世界に飛びこんで
サンタさんに会いに行こう!
すてきなおくりものって
何だろう? 飾
来てからのお楽しみだよ♡

各回
14:00~17:00
1月16日
(土)

お問い合わせ・お申込みは -----
沖縄キリスト教短期大学 保育科
TEL/FAX 098-946-2492
事務局 安田
※時間 9:00~17:00(土日祝日除く)
✉ waiwai.kiriton@ocjc.ac.jp



行こうよ!丘の上のハロウィンパーティ

みんなでおどろおどろ Trick or Treat!!

お問い合わせ
TEL/FAX: 098-946-2492
沖縄キリスト教短期大学
保育科事務室(虫田)
受付時間: 9:00~17:00 (土日祝日除く)
E-mail: waiwai@kitan@ocj.ac.jp

クッキング

親子で楽しくオリジナルクッキーを作ろう!!

THE かぼちゃだらけのレクリエーション!

体育館にくだらば4つの楽しみが待ってるよ!!

劇

ハロウィンのお話
おわかりやすく人形劇にしました!
観に来るわー♡


アトラクション

3つのゲームコーナーに挑戦して、お菓子をGETしよう!!

製作

親子でお面作り!!
へんしんしよう♡

日時: 10月31日(土)
14:00~17:00
場所: 沖縄キリスト教短期大学
対象: 小学校低学年以下 (保護者同伴)
当日受付可能



パクパク トントン ワイワイ

無料体験

パクパク

おかし作り♡

- ① スイートポテトを一人につき3つ
- 先着(組)20組のみ

トントン

工作だよ

- ① プラバンでキーホルダー作り
- ② パラシュートを作り飛ばしてみよう

ワイワイ

楽しもう!!

- ① チョコロールでお遊ぼう
- ② 自分の体をなぞり、姉妹の糸をかつこう

当日受付可能

お問い合わせ
沖縄キリスト教短期大学 保育科
TEL/FAX 098-946-2492
事務室 虫田(マズ)
※時間 9:00~17:00(土日祝日除く)
✉ waiwai@kitan@ocj.ac.jp

11月28日(土) 14:00~17:00まで

場所: 沖縄キリスト教短期大学
対象: 小学校 低学年以下 (保護者同伴)
持ち物: 体育館シューズ

※このイベントは、キリ短 保育科の「無料です!! ぜひ来て下さい!!」
親子支援事業「ワイワイプラザ」の第2回目です。最後は、写真立てのプレゼントもあつた♡

わいわいプラザ[®] in キリ短 第③回

ハッピークリスマス

～すてきな～
おくりもの～
サンタの国のクッキー

日時: **12月19日**
(4:00～17:00)
受付時間: 11:30～15:30
場所: 沖縄キリスト教短期大学
対象年齢: 2～9才
(保護者同伴で)
参加費: 無料
※当日の受付も可能です。

絵本の世界に
飛びこんで
サンタのくじで
運動あそび!

まっぼっくりで
オリジナル
クリスマスツリー
をつくろう♡

星空の下で
楽しい
ひとときを...
ワンタさんにも
会えるかも!!

思い出の語った
記念写真の
プレゼント
もあるよ♪

お問い合わせ
沖縄キリスト教短期大学 保育科
TEL/FAX 098-946-2492
事務局 安田(マメ)

※時間 9:00～17:00(土日祝日除く)
✉ waiwaikintan@ocjc.ac.jp

かきあわせて ゴールへゴー! わいわい ファミリーたんけんたい

主催: 沖縄キリスト短期大学 保育科Aクラス

★わいわいプラザとは★
地域交流事業として、
親子が楽しく遊べる場の
企画・運営を学生が主体
となって行うものです。

楽しい
おぼけ屋敷
ユニークなおぼけたち
一緒にミニゲームをクリアし
ゴールをめざそう!!

★ちらしルール★
おもいっきり
おおいで!
せがしを
しよう
スライム作り
* 限定20組!!
* 親子で自分だけ
のスライムを作ろう!

★おかし★
おもしろいゲームをつくって
まてるよ♡
おもしろい
親子製作
家族で写真もとって、
かわいい写真立てを
製作しよう!!

1月16日 (日)

14:00～17:00まで

📍 お問い合わせ 📍

沖縄キリスト教短期大学 保育科
TEL/FAX 098-946-2492
事務局 安田

※時間 9:00～17:00(土日祝日除く)
✉ waiwaikintan@ocjc.ac.jp

※場所
沖縄キリスト教
短期大学

※対象
小学生以下
(保護者同伴)

